

## 中小企業金融における生命保険解約の役割

明治大学 浅井義裕

中小企業は、株式の発行、社債の発行が難しいなど、上場企業に比べて手段が限られるため、資金調達が難しいと指摘されることが多い。そこで、中小企業の金融は、「中小企業金融」として、上場企業・大企業の企業金融、コーポレートファイナンスとは、異なった観点から議論が行われることがある。

たとえば、中小企業にとっては、銀行が主な資金調達先であり、企業金融における銀行の役割が特に重要であると強調される。中小企業と銀行の関係に注目したリレーションシップバンキングについては、数多くの研究が行われており、銀行と企業の関係が密接であると、企業は資金をスムーズに調達することができるという指摘される。

また、近年の企業金融分野の研究の文脈では、「企業はなぜ現金を保有するのか？」というテーマも注目を集めている。中小企業でも、現金を多く保有をしている企業は、差し迫った資金調達の問題に直面することが少ないかもしれない。

先行する多くの研究は、中小企業金融における銀行や現金保有の役割に注目していて、多くのことが明らかになりつつある。しかしながら、中小企業は、1年間に300万円程度の生命保険料（中央値）、250万円程度（中央値）の損害保険料を支払っているにも関わらず、中小企業金融における保険の役割に注目した研究はほとんど存在していない。

そこで、本研究では、中小企業金融において、生命保険がどのような役割を担っているのか、その一部を明らかにしようと試みる。特に、中小企業において、赤字を理由にして生命保険を解約する企業にはどのような特徴があるのか、その他の理由で生命保険を解約する企業にはどのような特徴があるのかを実証的に明らかにしようと試みる。

本研究で得られた主な結果を簡単に紹介しておこう。第1に、銀行との関係が強固ではないため中小企業ほど、生命保険を解約する傾向があることが明らかになった。第2に、利益の変動が大きい中小企業が、生命保険を解約する傾向があることが分かった。第3に、赤字が理由で生命保険を解約する中小企業は、現金保有比率が低いことも確認できた。